

研究開発課題概要

(様式5)

申請年度:2025年度

研究代表者:愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 多田 豊

課題名 地震発生時に家屋倒壊や津波到達等を考慮し現在地から避難場所までの最適な避難行動を喚起させる「スマートハザードマップ2.0」(SHM2)の開発～愛媛県松山市編～

プロジェクトの概要 既存技術を発展、災害時に避難経路を説明するSHM2を開発

ハザードマップの課題(P.3)

①見ても分からない
②災害時に見れない
③共助に繋がらない

課題解決

研究の背景(P.4～5)

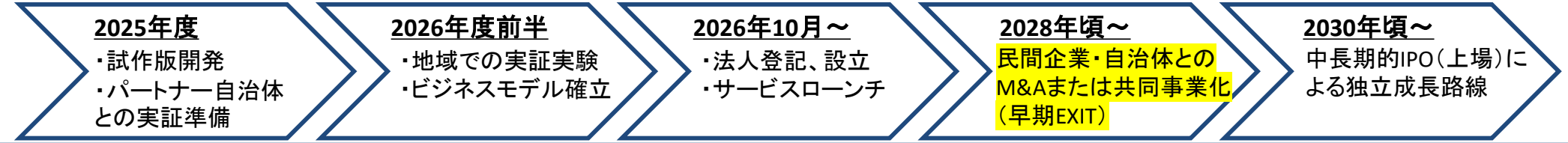
・避難行動を促すには説明が重要
・SHM1.0を開発済

SHM2の提供する価値(P.3)

①適切な避難経路を説明
②災害時プッシュ通知
③共助可能時間を通知

独創性・革新性(P.12) 個人単位でのリスク可視化、地域共働型防災

ビジネスモデル(申請時) 市場規模約80億(P.2)。自治体との共同事業化(早期EXIT)を想定(P.9～15)



活動計画(申請時) 両者連携によりSHM2の社会的実効性(価値提供)と技術的信頼性(効果)を実現

事業開発: 地域連携による防災サービスの社会実装(P.9～12)			研究開発: 中高生の防災行動を促す機能の開発と検証(P.9～12)		
	2025年度	2026年度		2025年度	2026年度
①開発方針	初期案作成	最終版の策定	⑥プロト設計	プロト設計仕様書作成	SHM2の完成
②資金戦略	資金戦略案を文書化	外部資金申請・獲得	⑦空間データ	地理空間データの整備	避難経路表示機能
③協議体設立	協議体設立に向け協議	協議体の正式設立	⑧UI評価	初期評価実施	UX評価と行動分析実施
④法制度整理	関連法制度の整理	利用規約整備・公開	⑨ユーザー調査	IT・防災意識調査実施	防災教材化の可能性検証
⑤広報戦略	ブランド初期案の決定	広報資料・媒体整備	⑩研究体制	研究チーム体制の構築	外部評価体制の構築